

地産地消の家づくり  
に取り組む

# 大工・工務店 設計事務所

## 有限会社岩木建設

- 大工目指す木明拓人さん
- 自然と暮らしinいわ木の家
- 母良田様邸

## 株式会社大山建工

- 植樹祭
- 正栄山本寿寺の「鐘楼」

## 有限会社キーポイントホーム

- 田沢様邸
- 中村様邸

## 建築組パックス有限会社

- 二澤平登様邸

## 企業組合県木住

- 伊藤一夫様邸
- 石岡紫織様邸

## 有限会社大坊建設

- 寶田様邸

# 有限会社 岩木建設



## 大工目指す 木明拓人さん



「ものづくり」がしたい

十和田職業能力開発校で5月15日(2019年)、令和元年度入校式が行われた。建築施工系木造建築科に入校したのは1人——木明拓人さん(18才)。高校を卒業し、大工を目指して(有)岩木建設に入社した新人だ。前年に木造建築科に3人が入校していたので、生徒数は現在4人。「大工が絶えるということは、継承してきた技も絶えることです。大工を育て、木造建築を繋いでいかなければなりません」——それが岩木勝志社長の信条。その気持ちに応えるように木明さんは入校式で「精進します」と宣誓した。

## 新卒採用し育て続ける

十和田職業能力開発校の内からカナツチの音が響いていた。今日は訓練日。ふだんは現場で働き、週2回(火、金)学校に通って技術の習得に励んでいる。期間は3年間。カナツチの音は、先日入校式が行われた講堂から聞こえてくる。先輩たちがノミとカナツチを使い「継ぎ手」の製作に取り組んでいる傍らで、木明さんはカンナ掛けの練習をしていた。

3寸5分(約10cm)の角材を載せた作業台の右側に膝をつく。背を伸ばして、長さ4尺(約120cm)の角材の端にカンナを置き、手前に引く。シュルシュル……。紙を剥ぐようにカンナ屑が丸まって出てきた。指導員がその作業の手元を見ている。

カンナを引いても、シュルシュルと音がしなくなった。あれ、と木明さんが小首をかしげる。指導員が角材を持ち上げて斜め



カンナ掛けの練習に励む木明さん。週2回学校に通い指導を受けている

にし、木口から縦に視線を這わせた。「ほら、ここだよ。表面が丸まっているだろう。それで刃がかからないんだ」。木明さん



継ぎ手の製作をする先輩たちも第一歩は木明さん(左端)と同様にカンナ掛けから練習した



体格だけでなく“やる気”も人一倍大きい

も同じようにして木を見る。あ、ほんのだ。「そういうとき、その丸まったところから削り出せばいい」と指導員。言われたとおりにそこにカンナをあてがい、引く。シュル、シュル……とカンナ屑が出た。そこを平らにしてから、再び背を伸ばし、角材の端からカンナをかけて手前の端で水平を保ったままスツと引く。それをくり返す。

さい「え、もらっていいんですか」「欲しいならくれてもいいけど、要はやる気が大事だということだよ。学校は週に2回だけ、家でなら帰ってから毎晩練習できるだろ」——汗で光る木明さんの顔がうなずいていた。

### 心と技術を共に磨け

岩木建設が新卒採用に取り組んだのは2010年度から。基礎からしっかりと技術を習



「基本から学び、積み重ねてほしい」と岩木社長から期待されている

得した大工を育てよう——。墨付けができ、ノミで刻みができ  
る本来の大工の育成に取り組  
まなければ継承してきた「技」  
が廃れてしまう。そういう危機  
感があった。木造建築は、しっか  
りと技術を身に付けた大工に  
よって受け継がれていく。それ  
には教育が必要。「躰しっけだ。昔の

大工は職人気質で、気に入ら  
なければ現場を放棄して帰ってし  
まったり、腕前を自慢に渡り歩  
く者が多かったりで、工務店は  
どうしても請負で仕事をする  
一匹狼たちの集団になりがち  
だった。請負で現場をこなすだ  
けでは工務店の将来は拓けな  
い。岩木社長は決断した。



「大工さんの働く姿を見るとワクワクするんです」と岩木建設の面接日に答えたという。念願の大工への一歩を踏み出した

## 岩木社長の話 工務店としての

世間的な信頼や評価を高めるためには、自社の特徴ある家づくりが必要です。青森県産材のヒバやスギなどを使い、昔ながらに手加工して建てる『いわ木の家』が当社の家づくりで、技術を持つ大工の育成は欠かせません。そのためには建築大工の資格を持った常備——日雇大工を育てること。一匹狼は長く居つかないし、現場を渡り歩くだけで終わってしまう。腕前よりも大事なものは人間性です。新卒採用をして第一歩から育てるのはそのためなんです。給料も月給制にしました。しっかりと技術を身に付けた先輩大工から若手大工へ技を継承していく——そういう組織でないと工務店の成長もありません。木明君も、現場と学校で基本から技術を学び、積み重ねてほしい。

——木明さんとの出会いは？

岩木専務の話 最初は、木明

君本人から会社に電話がかかってきたんです。去年（2018年）の2月でした。当社を訪問してみたいと。木明君は建築大工に憧れていたんです。

木明君が通っている高等学校を通して正式に職場訪問の依頼を受けたのが3月でした。第一印象は、体の大きい子でも、顔はごく普通の高校2年生でした。採用を決める前段階として、夏休み期間中にバイトをしてもらったときに、「なんで大

工になりたいの？」と聞いたたら、「大工ってワクワクするんです。——目がキラキラしていましたよ。」

岩木社長の話 面接日に、「なぜ大工を志したか」と質問をしました。木明君はバイトの時と同じに、「大工さんの働く姿を見るとワクワクするんです」「ものづくりがしたいんです」と答えました。根っから大工が好きなんです。その気持ちが見えたら、トレイトに伝わってきました。



初めて体験する現場での仕事に表情もやや緊張さみ

いわ木の家

## 有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1  
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259  
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



# 有限会社 岩木建設



## 自然と暮らし in いわ木の家 職人祭り

### 木に触れるといいことあるかも？

#### みんなで楽しめる 体験型イベント

イベント会場の一角に木製のベンチが積み重ねられてあった。職人の手作りで、脚が折りたたみ式の人気商品。(有)岩木建設の敷地内で2019年9月に行われた恒例の「みんなで楽しむ」体験型イベント『自然と暮らし in いわ木の家』である。女性がベンチを指さして、「これください」「一つですか」「3つ」。友だちと庭でバーベキューをするらしく、「手作りだと丈夫で長持ちするし、木の手触りも香りもいいしね」と笑顔で話す。建ち並ぶテントには「クロスやさん」「建具やさん」と貼り紙がしてある。今回のテーマは「職人との触れ合い」。木工だけでなく、業種ごとの手作りも体験できる趣向のようだ。

#### 職人たちと触れ合おう タイルで写真立て作り

「職人」をテーマにした趣旨を、岩木勝志社長はこう話す。

「家を建てるのに必要な職人は大工ばかりではありません。基礎屋、水道屋、板金屋、左官屋などさまざまあります。建築中の現場ではそういう職人たちの働く姿は見られますが、イベントに出ることは今までありませんでした。『いわ木の家』は職人による手作りが「売り」ですから、職人たちにも参加してもらい、お客様と触れ合える場にしよう」と声をかけたのです。それに職人たちが応えた。

「水道やさん」のテントでは、子供たちが小さなタイルを写真立てに貼り付けているところだった。皿に盛られた緑や赤や茶など1cm角ほどの5色のタイルは、洗面所の壁や棚などに貼るタイルだそう。それをボードで写真立ての枠に1枚1枚貼り付けていく。完成品は1



「水道やさん」のブースでタイルを写真立てに貼り付ける子供たち

100円ショップの材料から出来たとは思えない作品

00円ショップで買った材料から出来たとは思えない別物の出来栄えた。

「水道やさん」の左隣が「クロス

やさん」、右が「建具やさん」のブース。好みの柄のクロスを貼ったり、組子細工を想わせる四角い木の枠の飾りを作ったり……。子供たちよりも大人のほうが楽しそうなのは、ものづくりで童心に返るからだろう。

その隣の「大工DIY」コーナーでは、小箱作りが行われていた。加工場内に敷かれたコンパネの上で参加者がクリの板に釘を打つ。サポートしているのは木明拓人さん。この春に岩木



「クロスやさん」のブースで好みの柄のクロスを貼る参加者たち

建設に入社した新人大工だ。ドリルで板に穴をあけ、参加者がそこに釘をあてがって金槌で打つ。「お父さん、頑張つて」と声には出さないが、内心声援を送っているような笑顔で奥様が背後から見守っている。出来上がった小箱を隣のブースの「塗装やさん」でウレタン塗装してもらえば、これも「グイッピン」に仕上がる。

テーブルにツルが置かれていた。折りヅルが6羽。ピンと真



組子細工を想わせる四角い木の枠の飾りを作っている「建具やさん」のブース



出来上がった小箱をウレタン塗装で仕上げる塗装やさん



プロがサポートする「大工DIY」コーナーで小箱作りに挑戦

横に張った翼が光っている。紙ではなく、銅板なのだった。そこは「板金やさん」のブース。折り目に爪を当てたかのようなシャープな線を板金で表しているところが職人技。目の前で職人が実演しているのは、サツマイモの蒸し器らしい。長方形の板金の端を棒で叩いて折り返した蒸し器の蓋を、今度は大工が作る連携プレー。難なくこなしているが、熟練の技ほど簡単そうに見えるものである。



職人技が光る「板金やさん」のブースに飾られた銅板の折りヅル

## 皆様に支えられ65周年 感謝を家づくりで還元

モデルハウスの中で行われて  
いるのは「暮らしを彩る」趣味の  
教室。「押し花&植彩画」や  
「パッチワーク」「デコパージュ」  
……などの製作体験もできる。  
それぞれの教室の主催者は、岩



サツマイモの蒸し器を作る実演をする職人さん

木建設の協力によりこのモデル  
ハウスでワークショップを開く  
など「地元の魅力発信」に熱心  
な仲間たちだ。

「押し花&植彩画」の部屋に  
入って、目に留まったのが茅葺  
屋根の民家。油絵に見えるが、  
樹木や野菜などの皮を貼った  
植彩画なのだそうだ。講師によ  
ると、民家は白川郷の合掌造り  
を描いたもので、屋根の部分に  
貼っているのがサトイモの皮だ  
という。壁はゴボウ、窓の障子



木の玩具で遊ぶ子供たち。見る大人たちも笑顔になる

はシラカバの皮。民家の前に広  
がる田園の稲はシバザクラの葉  
だとか。シバザクラの細く小さ  
な葉を一枚一枚貼り付ける作  
業は根気も要るし時間もかか  
るだろう。

2階ホールに展示されてい  
た「パッチワーク」もそうだ。壁  
飾りの布に縦横に並ぶ模様が、  
実は小さな半袖のTシャツに  
なっていて、しかも色もデザイ

ンもみな違うのだ。仕上がるの  
に何日、いや何ヶ月かかっただ  
ろう。大きな壁飾りから小さな  
ストラップまで二つ二つが手作  
り。手間暇かけた作品という  
ものは見る者に染みて心を豊  
かにしてくれるものだ。

岩木建設では、モデルハウス  
が完成した2010年の翌年  
から毎年「展示場感謝祭」を  
行ってきた。顧客には展示場の



見学者が圧倒的に多く、その感謝を込めたイベントである。お客様と同様に会社を支えてく



熟練の技で披露するチェーンソーアート。丸太から削り出されたフクロウが生きているようだ



パッチワークの教室・作品展



押し花&植彩画の教室・作品展



手作りシンプルコスメ(十和田市生まれの「雪の泡せっけん」)ワークショップ

\*この他、1階のリビングでは美味しいコーヒー(ティータイム)ワークショップも開催された。

モデルハウス内で  
同時開催された  
教室・作品展・  
ワークショップ



ステンドグラスワークショップ



デコパージュ(紙に描かれた絵を切り抜き、木やプラスチックなどに貼り付ける手芸の一種)ワークショップ

れるのが、職人だ。職人あつての『いわ木の家』。岩木専務はこう話す。  
「ハウジングパークなどでは展示場が並んで建っていて、完成した『家』だけを見せるようになっていきます。当社では、建てる職人を大事にしています。そうすれば自ずと良い家が建つからです。それで今回は大工だけでなく他の職人にもイベントに参加してもらいました。『木』と

『住まい』と『人』とが同じ『地域』でつながる家づくりが地元工務店の役割だと思っんです。職人たちと一緒にね」  
その思いは、会場に掲げた横幕の『皆様に支えられ創業六十五年ありがとうございます』に凝縮されている。  
参加者が帰る際に、受付に立つ岩木社長と専務に声をかけられる――「来年も楽しみにしていますよ」「お待ちしております」

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1

TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259

E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



長期優良住宅展示場「いわ木の家」

# 有限会社 岩木建設



## 店と外壁をリフォーム

### ユーザー訪問

リフォーム 母良田 様邸

- DATA**
- 十和田市大沢田 2019年8月竣工
  - 延べ床面積 / 50.00坪 (165.29㎡)
  - 使用青森県産材 / スギ(一部外壁、柱、軒桁、床)、クリ(下屋柱)など。

## 下屋のある家 にしたい

秋晴れの日曜日。黄金色の田園が広がる農道を走り抜け、道沿いに家々が並び集落に差しかけた。確かこのへんだったはず……とスピードを落としたが、「商店」が見当たらない。通り過ぎてしばらく走ってから、引き返した。なるほど気が付かなかったわけだ、リフォーム以前の「商店」だった入り口のガラス戸がなくなっていたのだ。そこには片流れの屋根を延ばした「下屋」が架けられ、スギ板の外壁の前に太い柱が立っている。外壁も全面張り替え、「いわ木の家」のシンボル「下屋のある家」に生まれ変わった母良田様邸。取材は、うっかり通り過ぎた話から始まった。

ご主人も笑って話す。「訪ねてきた親戚も通り過ぎてしまったらしいですよ。もう40年間もここで商店をやっていますからね、皆の記憶に入り口のガラス戸が刷り込まれているんでしょう。それがなくなったものだから見落とすんですね。この地区に1軒だけの酒屋で、お客様が店内の隅で二杯ひっかけたり、仲間たちと話したりする交流の場だったんです。時代は今やコンビニで、個人商店の役割は終わったけど、店を閉める寂しさよりも、だんだんと家が新しくなっていくほうが楽しみでしたよ。家の中で大工さんの工事の音がするっていいもんです、活気があってね」

ご夫婦のお気に入りには、「下屋」の下に据えたテーブルと椅子。岩木社長がプレゼントしてくれたというクリ材の手作りだ。並んで座っていただき、はい、パチリ。

——岩木建設を紹介してくれたのは知り合いの鍛金屋さん



Before



After



だそうですね。

**ご主人の話** そうなんです。私  
が娘の通う小学校のPTA会  
長だったときに、体育振興会の  
会長をしていた仲で、もう15年

くらいの付き合いになります。  
鋳金屋から紹介されたその日  
に、岩木建設の展示場を見に  
行ったんですよ。車で15分くら  
いですからね。気に入ったのが

「下屋」でした。いかにも  
「日本の家」という感じ  
で、わが家にも「下屋」が  
ほしいなど、しばらく外  
で見惚れていましたよ。



奥様がお気に入りだという無垢材のスギを張った廊下回りの床



下屋の下のクリ材のテーブルと椅子は岩木社長のプレゼント

**奥様の話** わたしは居間の  
「木」の床が気に入りました。冷  
たく堅い合板とは肌触りがぜ  
んぜん違いました。あの日は連  
絡しないで展示場に行ったん  
ですけど、ちょうど岩木社長も専  
務さんも事務所にいらして、丁  
寧に対応してくれました。社長  
さんも専務さんも気さくで、初  
対面でもうお願いしようと思  
めました。60年以上も続いてき

た工務店だそうで、それだけで信頼できますよね。

## 写真の住宅に一目惚れ 格調ある玄関前の格子

**ご主人の話** 実は、去年(2018年)の春からリフォームに取りかかる予定だったんですよ。商店は一昨年に閉めて、店舗だったスペースを部屋に変える計画でした。どうせ直すのだから、傷んだ外壁も直そう、壁と天井に断熱材も入れてもらおう、二重サッシを樹脂製のペアガラスのサッシに替えてもら



部屋として使える広い屋根裏スペース

おう——と、だんだんエスカレートして、工事を頼んでいた個人の大手の手に余る内容に膨らんでしまったんです。岩木建設を紹介されるまで半年ばかり時間が空いたけど、急がなくて良かったと思っただけは、パソコンで岩木建設のホームページを見たときでした。「新築情報」に載っていた平屋の住宅に一目惚れしたんです。私たちのイメージにぴったりでした。

まず「下屋」があつて、太い柱が立っていて、外壁(ガルバリウム鋼板)の色も私好みの緑色で



ご主人が一目惚れしたという現場の造りに合わせた玄関前の格子と緑色のガルバリウムの外壁



ご夫婦お気に入りの場所では、はい、バチリ

聞きました。普通はコンクリートとか金属ですよ。そういう細部にまで行き渡った配慮が建物全体の格調につながるんですね。

**岩木社長の話** 当社では、例

えばサイディング張りの外壁のリフォームを依頼された場合は、そのままその上に新しいサイディングを張る、ということとはしません。現状の外壁を剥がしてから張り替えます。そうしないと、表面が新しくなるだけで、住宅性能が良くなるわけではなからずです。外壁をリフォームするのはそれなりに年数の経った家で、断熱材が入っていたにしても薄く密度も低いものが多いから、この際に、壁も天井も新しく性能の高い断熱材を入れ換えるべきです。そうお薦めします。もう一つ、外壁を剥がす際に、窓のサッシの交換も提案しています。サッシだけを交換するにしても外壁を剥がさなければならぬので、一緒にやったほうが経済的です。

見た目だけではなく、温かく、外の音も気にならない快適な住み心地が得られてこそリフォームだと考えます。その提案に母良田様も納得してくださいました。

**ご主人の話** 岩木建設に今年

入社した木明さん(木明拓人さん)の初めての現場が、わが家なんだそうですね。彼には「記憶に残る」現場になったでしょうし、私も、新しく付いた階段で屋根裏に上がるたびに、先輩大工に教えられながらそこで作業していた初々しい彼の姿を思い出すでしょう。

**岩木社長の話** 木明君、1位

になったんですよ。今年の9月に県立青森高等技術専門学校(青森市)で開催された「技能大会」(第61回認定職業訓練生徒技能競技大会)の木造建築科の一年生の部で、1位を取ったんです。

**ご主人の話** それは、めでた

い。自分の子供のことみたいに嬉しいですね。

いわ木の家

## 有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1  
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259  
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

